

町勢要覧 2018

鹿児島県伊仙町

-生涯活躍の町づくり「すべての町民が主役のまちづくり」実現に向けて-



伊仙町長 大久保 明

長寿世界一を2名輩出し、平成20年から平成24年にかけて合計特殊出生率が全国1位となり、長寿・子宝の町として、以前から大きな注目を集めていました。少子高齢化対策が国の重要課題と位置付けられている昨今において、伊仙町は地方創生におけるモデルケースとして、内閣府からも大きな関心が寄せられています。地方創生分野においては、「集中から分散へ」という大きな目標を国が掲げており、本町においても地方創生事業の先駆

的導入によって、企業誘致や子育て支援の充実など人口増加につなげる施策を積極的に実施しています。

企業誘致の取り組みとして「長寿と子宝のまちでサテライトオフィス事業」を実施しており、伊仙町への企業進出を促すことで、若者の雇用創出を目指します。

子育て支援として、変わりゆく未来を生き抜く力をつけてもらうために「徳之島学」と「キャリア教育」を柱に、「いせん寺子屋」を開設しており、町内の小中高生が参加しています。

高齢者が住み慣れた地域で安心して生活が持続できるように医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される「地域包括ケアシステム」を今後もより深化・推進していきます。

農業分野においては、農業生産額50億円の持続的な達成に向けて、平成28年度に設置された伊仙町農業支援センター「青緑の里（せいりょくのさと）」を拠点にして、人材育成を柱とした就農支援を行います。さらに、さとうきび生産農家には、新植への助成事業を継続し、生産拡大と単収向上に努めます。ばれいしょ生産農家には、輸送コスト支援をはじめ、共同利用機械の導入を行い、面積拡大を推進します。畜産農家には、繁殖雌牛の増頭や品質向上を図るため、優良素牛事業の補助金を交付し、繁殖雌牛頭数の確保を推進します。

漁業分野においては、地元産魚介類の宣伝・販売等を促進するための各種イベントを実施します。

平成30年は、世界自然遺産登録の実現という大きな節目の年を迎えようとしています。さらに、NHKの大河ドラマ「西郷どん」で、奄美群島が大きな脚光を浴びており、交流人口の拡大が期待されます。

今後も、現状と課題に応じた施策の実現に向けて取り組み、町勢発展へ繋げて参ります。

本町における各分野の取り組みについて、皆様へ御理解戴く一助となるよう本誌を発刊致しました。御参考になれば幸いです。